

ROTARY INTERNATIONAL 松江ロータリー・クラブ 週報

MATSUE WEEKLY

2017-18年度国際ロータリーのテーマ
ロータリー：変化をもたらす

No. 3179

事務所 〒690-0874 松江市中原町167-1-3F TEL 21-6143 FAX 31-8985
HP: <http://www.matsue-rotary.jp> E-mail: office@matsue-rotary.jp

第3179回例会(平成29年10月11日・水)

今週のプログラム

10月11日(水) ゲストスピーチ
「*Streptomyces* 属菌STS1株による
キュウリ病害の抑制について」
米山奨学生 ガンブン、ラットリー・コーンさん

次週のプログラム

10月18日(水)
「職場訪問例会
島根原子力発電所3号機視察」

結婚月

加島 幸夫会員	3日	長野 真久会員	7日
細田 重雄会員	9日	井上 晴夫会員	10日
松井 裕幸会員	10日	杉原 秀範会員	11日
波多野秀明会員	13日	辻 謙次会員	15日
仙田 一恭会員	18日	川内 孝治会員	19日
佐藤 尚士会員	21日	立石 仁司会員	21日
大野 光徳会員	26日	内藤 守会員	27日



本日のエレクトーン 松本悦子さん

例会変更のお知らせ

月 日	クラブ名	受付場所
10月17日(火)	境 港	Asian Resort Dining 炯國
10月24日(火)	出 雲	ホテル武志山荘
10月25日(水)	大 社	出雲商工会内事務局(大社町梓葉南1314)
10月30日(月)	米 子 南	ANAクラウンプラザホテル米子
10月31日(火)	松江しんじ湖	すいてんかく

10月1日より米子全日空ホテルは「ANAクラウンプラザホテル米子」にリブランドしました。

2017年(平成29年)10月~11月の予定

- 10月18日(水) 職場訪問例会
島根原子力発電所3号機視察
- 10月21日(土)~22日(日) 地区大会
22日(日) 本会議 10:00~ 倉敷市民会館
記念講演
徳川宗家19代目当主
翻訳家、政治・経済評論家
徳川家広氏
「関ヶ原から読み解く日本近代史
~中国地方の徳川400年~」
懇親会 17:00~ 倉敷アイビスクエア
交通手段 松江4クラブ合同貸切バス
- 11月1日(水) 定例理事会
- 11月12日(日) 松江ロータリー秋季ゴルフコンペ
島根ゴルフ倶楽部(10時集合)
- 11月18日(土) 家族交流 秋の味覚を堪能する会・
新入会員歓迎会
場所: (株)暉祥 地のもの市場
時間: 16:00~

第3178回例会記録

平成29年10月4日(水・晴れ)

会員数 70名
出席者数 42名
欠席者数 28名
出席率 70.00%(出席免除会員含む)
前々回補正 92.06%(出席免除会員含む)

ビジター 小田原(宮崎西)
メーカーキャップ 竹岡(松江南)、谷口正、原(松江東)
中島、波多野、古瀬、舟越(松江しんじ湖)

会務報告

ビジター紹介
ゲストスピーカー紹介
中国電力陸上競技部 総監督 さかぐち やすし 坂口 泰様

森岡幹事

ガバナー月信10月号配付。
10月18日の職場訪問参加✓切今日中に事務局まで。
(事前に参加名簿提出のため当日参加不可)
本日例会終了後、定例理事会開催。

委員会報告

クラブ管理運営 親睦・出席委員会 勝部治委員長
出席報告

スピーチ

「東京2020,どう戦う日本男子マラソン」
中国電力陸上競技部 総監督 さかぐち やすし 坂口 泰氏



ニコニコ箱

26,000 円

伊原、佐藤尚、森岡（本日のゲストスピーカー中国電力陸上競技部 総監督 坂口泰様のスピーチに期待して。）
紀野（坂口総監督のお話を楽しみにしていました。）
杉原秀（坂口総監督を歓迎して。前はたしか東洋大学1年の柏原が箱根で鮮烈なデビューを飾った直後においでいただきました。これからも中電陸上部の活躍を期待しています。）
谷口正（本日のスピーチ坂口総監督のお話楽しみです。）
堀井（本日所用により早退させていただきます。）
錦織、川内（出席100%賞）
伊原、小林淳（誕生月）

長岡、勝部治、原田（入会月）
仙田（結婚月）

ベストメッセージ賞：該当者なし
司会 原田会場監督

理事会報告

歴代会長会報告
2019 - 20年度会長予定者 櫻井誠己会員
米山奨学生留学の件
森の音楽祭寄付の件他

ひとこと
随想

アポロとアメリカ



にしむら やすし
西村 康

長男が2年間のアメリカ・ヒューストンでの勤務を終え今年5月に帰国したが、それより一足先の3月に嫁と孫が帰国することになったので、引越しの手伝いがてら家内と一緒に一週間ほどアメリカに行ってきた。引越越し荷物の整理と荷造りをしながらヒューストンの観光もして、ANAの手荷物無料の範囲に収まるだけの目いっぱい荷物を持って嫁と孫と一緒に帰国するという欲張りな忙しい日程だった。

そんな一日、NASA（アメリカ航空宇宙局）のジョンソン宇宙センターを見学した。

広大な敷地の中に、巨大なサターンロケットや、初めて月面に着陸したアポロ11号、スペースシャトルなどに関するたくさんの展示があった。

1969年7月20日の人類初の月面着陸の様子は、松江の自動車学校で見た。私は大学1回生の夏休みに松江に帰省して運転免許を取るために自動車学校に通っていた。夏の太陽が照りつける暑い日だった。月面への着陸はテレビで生中継され、授業を中断して生徒も教官も全員で食堂の白黒テレビで、汗をかきながらハラハラドキドキと食い入るように見つめ、着陸の瞬間には全員が大拍手して、涙が出るほど感動した。月面に初めて降り立ち「この一歩は、ひとりの人間にとっては小さな一歩だが、人類にとっては大きな飛躍だ。」と



写真

いうアームストロング船長の言葉に、人類の夢と未来を大いに信じたものであった。

この時に持ち帰られた「月の石」が翌年開催された大阪万国博覧会のアメリカ館の目玉として展示された。大変な人気を博し、月の石を一目見ようと人々はアメリカ館に押し寄せ、大変な混雑となり、私は入場するのをあきらめた思い出がある。その石が、ここに展示されていて、自分の手で触ることができるようになっていたが、喜んで撫で触っているのは私と家内だけで、他のアメリカ人たちは誰も見向きもしていなかった。

アポロ11号の着陸船との交信をした管制司令部も当時のまま残されていて、今のスマートフォンよりもはるかに性能に劣るコンピューターで、よくまあ人間を月まで送り届けたものだと感心した。また、サターンロケット（写真）は、3段式で全長110m、直径10m、重量3038トンと巨大なもの。先端に取り付けられたほんの小さな宇宙船を月まで届けるために、こんなにも巨大なロケットが必要だったのであり、これを次々と打ち上げていた当時のアメリカの国力と科学力と熱狂に恐れ入った。

古き良きアメリカ・・・、日本もアメリカも経済がどんどん伸びて、右肩上がりの時代だった。現在のトランプ大統領の内向きの発想とはスケールも次元も違うアメリカだった。

大統領の就任から半年。トランプ氏の迷走はまだまだ続き、アメリカは、世界は、どこへ向かい、どこに着陸するのだろうか。

写真は長男の部屋で目にした国連製のパソコンのマウスパッドだ。「A」の文字をくわえた鳩は、「戦争」か「平和」か、いったいどちらに飛んで行くのだろうか。

（金物販売）



写真